

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

平成 29年 10月 24日 (火) 第5校時

高知市立愛宕中学校2年1組 生徒数38名

指導者 吉岡由美・入野要

1 単元構想図

防災を行動に移す調査・比較・発見・活用と、さらなる課題設定

100年先も住みたい高知～共助と減災～

【単元でつきたい力】

- ・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する力〈自分自身〉【行動力】
- ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に活かそうとする力〈学習方法〉【情報活用力】
- ・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する力〈自分自身〉【課題発見力】

◆学習の流れ

第1次 1～3時

- 愛宕中学校で防災教育をする意義について考える
- ・避難訓練、災害エスノグラフィ
- ・今年度と昨年度の違い（自助・共助・公助、0～2次防災）
- ・竹ひごタワーでCRM（クルー・リソース・マネージメント）

第2次 4・5時

- 個人研究の発表と焦点化、全体活動の内容検討
- ・アイディアソン（プレイズファースト：良点発見）
- ・中学生ができることなど絞り込み（例：KJ法）

第3次 6～12時（本時1/7）

- 全体活動（共助）に向けての課題設定
- ・「地域の方に何を発信したいのか」タブレットで情報共有
- ・学校行事と防災の関連付け（修学旅行とのリンク）
- ・京都防災センターや観光と防災、耐震構造などの下調べ
- ・読み手を意識した新聞づくりとは、新聞づくり、プレゼン

第4次 13～19時

- 大阪・京都で調査活動
- ・大阪城、清水寺など歴史的建造物と耐震構造
- ・京都など観光資源と防災
- ・京都防災センターで実地体験

第5次 20～23時

- 自分に身に付いた力を分析し、今後活かそう
- ・ATAGOタイムで身に付いた力を、根拠をもって説明
- ・グラフ活用術や思考ソールを使って発表（京都・大阪）
- ・高知のよさと課題、東北から学んだことをパワーポイントで発表

第6次 24～26時

- 3学期の活動に向けて
- ・被災者語り部さんによる講演
- ・活動を具現化（例：PMI分析表、P&Sシート）
- ・冬休みの個人研究の課題設定

◆意識の流れ

【生徒の実態】表現力に課題があり、一部生徒の規範意識の低さがあるが、ほとんどの生徒は「人の役に立ちたい」「学んだことを生活に活かしたい」「異なる意見を受け入れたい」と考えており、前向きに活動ができる。アンケートでは、「班活動でまとめることができる」の肯定的回答が年度当初から低かったことから、現在もまだ人間関係の構築のために行事や教科と絡めて班活動の活性化を図っている。総合的な学習の時間のアンケートにおいて分析の評価の項目については、大きく向上してきている。

なぜ愛宕中では防災を学習しなくてはいけないのか。一年生よりもっと高い目標でやりたい。自分だけではなく地域のリーダーとして共助を目指したい。

他の人は防災の何を調べてきたのかな。いいアイデアを自分活かそう。2年生全体で何かやり遂げたいな。

地震前の備え、地震の時の避難について考えたから、避難所生活や生活の立て直しについて学んだらどうだろう。修学旅行で何を調べようか。

防災上、昔の知恵が活かされているんだな。木造が多い京都の防災と観光のバランスが大変そう。

高知県の強み、弱みが見えてきたぞ。3学期に地域の方に還元する報告会を成功させたい。東北の体験者の話を聞いて、快適な避難所生活を考えよう。

2 単元について

(1) 単元観

本校は高知市中心部に位置しており、学区に大型商業施設や愛宕商店街を有する。一方、山間部の久重地区では農業が盛んであり、特に四方竹が有名である。また、学区に隣接する地域に高知駅、日曜市が開催される追手筋、高知城、今年度開館した高知県立高知城歴史博物館等もあり、教育資源にも恵まれている。近年愛宕商店街活性化プロジェクトとして、商店街のシャッター通りを何とか解決したいという思いをもって取り組んできた。プロジェクトの活動は現在、生徒会が主体となって取り組んでいる。

このような多様で魅力的な素材を活かし、身の回りや地域に目を向け、地域の課題を自分と関連させ、主体的に探究させることにより、自己の在り方や生き方について考えさせたいと思い、この単元を構想した。また、探究するにあたって、生徒に主体性をもたせるために、総合的な学習の時間の意義、既習事項の確認、自己の課題設定の時間を十分にとる必要があると考え、“さらなる課題設定”の単元を取り入れた。

さらに、高知県では、今後30年以内（昭和南海地震から71年目）に南海トラフ地震が発生する確率が74%程度（2017年4月）とされており、地震に伴う災害について学ぶことが緊急課題となっている。その防災学習において、1年生では既存の防災の知識や知恵について学び、伝統となっている地域との調査活動を活用し、「自助」について学んできた。2年生では、1年生での知識や経験を活かし、「共助」を学ぶことに主眼をおいている。3年生では公助として社会全般を考え、3年間の学習の集大成として卒業論文に取り組みせたい。

総合的な学習の時間は「防災」と「職業・将来」の2本立てとなっており、100年先も住みたい高知をイメージできるような工夫をしてきた。1年では「学ぶ」、2年では「考え行動する」、3年では「自分づくりへの挑戦」と題し、課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現を、レベルを上げつつサイクルを回してきている。その中でも本単元の課題の設定は最も大切な学習活動だと考えており、活動の多い2年生だからこそ情報収集、整理分析よりも課題設定に気を配り、生徒の意欲喚起を教員が意識し、学習に連続性をもたせていきたい。0次防災から2次防災への考え方も取り入れ、生徒自身のアイデアを出す単元としていく。

(2) 生徒観

2年生は149名、4クラス編成で学習に取り組んでいる。昨年度は人工知能について学び、シンギュラリティについて考え、社会に求められる力は9教科の学力だけではないことを知った。また、【情報収集】として図書館の書籍や新聞記事、インタビュー、インターネット（一部生徒）等を利用する手段を身に付けた。また、【整理・分析】の方法の一つとして、「はがき新聞」、「防災壁新聞」、「職業調べ冊子」等を作成する技能を身に付けた。そして「思考ツール」を使って適切に図示することの大切さも学んだ。さらに、【まとめ・表現】の一部として、防災リーダーは作文を新聞社に提出し、他の生徒は学級での発表会を実施した。

しかし、年度当初の総合的な学習の時間のアンケートからは、「教科で学習したことを活かして、総合的な学習で調査や分析をしている」の肯定的評価が64.5%と低い結果となった。「教科の学習と総合的な学習はつながっていると思う」の肯定的評価は88.4%で高く、一見矛盾しているようだが、生徒自身に【整理・分析】をしている実感がないと考えられる。中間アンケートではその差は14.8%に縮小した。

さらに、「家族と総合の学習について話すことがある」は肯定的評価が53.6%→55.4%と最も低く、長期休暇中の“個人研究”や家庭を巻き込んだアンケートを実施し、保護者の教育活動の参画を仕組む必要がある。

一方で、「人の役に立てるひとになりたい」、「異なる意見を取り入れ、理解しようと思う」は中間アンケートでは100%を切ったが高く、思春期とはいえ前向きな活動ができる長所をもっている生徒たちである。

(3) 指導観

本年度、本校は育成すべき資質・能力を設定し、重点的に指導していくことを校内で確認した。そのなかで、教師が生徒を評価するだけではなく、自己を振り返り、根拠をもって自分自身を評価する時間を十分にとっていくように年間計画を立てた【PISA型学習】。さらに、「自分の意見を、根拠を明確にして表現できる」や「班やクラスの意見をまとめることができる」の肯定的評価が全校的に低いため、班活動、自己開示をする時間を意図的に取り入れながら、自己肯定感を育成したい。あわせて学校行事や修学旅行、志教育、わくわくWORK、立志式、一日入学と関連づけて個人研究からさらに学年としての活動にすむようアイデアを出し絞っていく手法を伝えながら学習を進めていきたい。

また、総合的な学習の時間では、4つの段階を螺旋階段を上るように学習していく時間であることを念頭に、本校で教科横断的に設定された「育成すべき資質・能力」の中で、本単元では「課題発見力」の向上を図っていくという視点で探究的な活動となる工夫をしていきたい。あわせて、生徒に総合的な学習の時間と日常の関連について生徒自ら気がつく指導にも取り組み、家族を巻き込んだ学習を目指していく。



3 単元の概要

(1) 単元の目標

「防災」や「職業・将来」について学んだことをもとに、個人研究のテーマ設定を行い、アイデアを持ち寄って、他者の意見を取り入れながら考えを深め、特に「共助」において何が課題なのか探究する過程で、解決方法を協働的に発見し、地域に貢献しようとする。

その際、東北地方の中学生の手記や高知県内外の比較資料、歴史的見地、被災者の方の講演、避難所運営組織の方との演習を実施することで、内容を深化させる。

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

〈学習方法に関すること〉

- ア. 多角的に情報を収集し、視点を定めて多様な情報を分析する。
- イ. 複雑な問題状況における事実や関係を比較し、自分の考えをもつ。
- ウ. 仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する。

〈自分自身に関すること〉

- エ. 自らの行為、言動に責任をもち、意思決定、行動する。
- オ. 目標を明確にし、課題解決に向けて計画的に行動する。
- カ. 自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する。

〈他者や社会とのかかわりに関すること〉

- キ. 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する。
- ク. 地域の課題について考え、協働して解決しようとする。
- ケ. 小集団の中で互いの特徴や意見を活かし、補い合うことでさらにより成果を得ようとする。

(3) 単元で学ぶ内容

- ア. ブレイクスルーの手法を身につけ、地域に還元できるアイデアを発表するまでの手順。
- イ. 避難所訓練や講演などの経験や知識を活かし、高知県内外での調査活動を協働的、計画的に進める力。
- ウ. 下調べや立案・計画の後、調査・まとめ・発表をし、自己評価活動「ATAGO タイム」で各自の能力をメタ認知する手法。

4 単元の評価規準

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
①エスノグラフィー、アイデアソンを通してブレイクスルーの手法を身につけ、分析の時に思考ツールを活用している。 【(2) ア・ウ、(3) ア】	①探究の過程で自らの学習活動を振り返り、調査活動を計画的・主体的に進めている。 【(2) エ・オ、(3) イ】	①活動を通じて様々な立場の人と関わり、多様な考えを受け入れている。 【(2) キ・ケ、(3) ア・イ】
②課題解決のために立案・検証し、相手や目的・意図に応じて論理的に表現している。 【(2) イ・ウ、(3) ウ】	②学習を振り返り、生活に活かそうとしており、自分自身の能力を把握してアピールできる。 【(2) カ、(3) ウ】	②昨年度「自助」について学んだことに対して、本年度「共助」という視点で地域の方に貢献しようとする態度で協働的に活動している。 【(2) ク・ケ、(3) イ・ウ】

5 指導と評価の計画 (全26時間)

小単元 (時数)	主な学習内容	評価規準および評価方法	
1 愛宕中学校で防災学習をする意味を考えよう (全3時間)	<p>○避難訓練と災害エスノグラフィー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会の時に地震が起きたと想定し、体育館からグラウンドに出て、その後状況に応じて垂直避難する訓練をする。 ・名取市第二中学校、気仙沼市階上中学校、石巻市牡鹿中学校の中学生の手記を読み、感想を述べ合う。 ・高知県土木部防災砂防課の『あなたの大切なものを土砂災害から守るために』の冊子を使い、「自助」「共助」「公助」の再確認をする。さらに、0次防災・1次防災だけでなく、2次防災の考え方があることを知る。 ・竹ひごタワーでCRM (クルー・リソース・マネジメント) を体験し、人とのつながりが防災上では最善策であることを知る。 	他① 学① 他①	<p>観察による評価 (行動観察)</p> <p>制作物による評価 (冊子内のワークシート)</p> <p>観察による評価 (行動観察)</p>
2 個人研究の発表と焦点化、全体 活動の内容検討(全2時間)	<p>○個人研究の発表と焦点化、全体活動の内容検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの宿題にしていた「個人研究」を掲示し、それぞれのレポートを読み、プレイズファースト(良点発見)をする。学年全体の共通活動を何にするかアイデアを出し合う(アイデアソン)。 ・学年全体の共通活動のアイデアそれぞれについて、可能か考える。KJ法を例示し、座標軸の項目を何にするか工夫するよう促す。 「実現できる・実現は難しい」「個人で・集団で」等 	学① 学① 学②	<p>制作物による評価 (ワークシート、個人レポート)</p> <p>観察による評価 (行動観察)</p> <p>制作物による評価 (タブレットのレポート画像)</p>
3 全体活動に向けての課題設定 (全7時間)	<p>○全体活動(共助・2次防災)に向けての課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助け合うこと、防災・避難ではなく避難後の場面、について焦点化する。 避難所生活を快適にするために何を調べ、何を地域の方に発信し、私たちがどんな活動をするのか、課題設定する(タブレットを使った情報共有)。 ・学校行事と防災学習を関連付ける。 修学旅行で県外に行くので、何を比較検討するか明確化する。 ・京都防災センターで学べることを知り、下調べする。 ・大阪城・高知城の下調べをする。 ・京都の防災と観光のバランスについて考える。 ・読み手を意識した新聞づくりについて再び学び、冊子を作成。 	学② 学② 学②	<p>制作物による評価 (ワークシート タブレットの班レポート)</p> <p>制作物による評価 (修学旅行新聞)</p> <p>制作物による評価 (愛宕るるぶ) ※見⑤・食⑥・学⑧</p>

<p>4 大阪・京都で調査活動 (全7時間)</p>	<p>○京都・大阪で調査活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪城、清水寺など歴史的建造物と耐震構造について気づいたことをメモし、写真を撮る。 ・京都は長屋づくりで建物が密接しており、木造が多いので、防災には適していないが、観光資源を大事に守りながらどんな対策をしているか、気づいたことをメモし、写真に撮る。 ・京都防災センターでは、雨、風、浸水、連絡手段、ヘリ、部屋での2次災害予防をしながらの揺れ、暗闇での避難、消火等の体験を通して、今まで気づかなかった災害での注意事項について考える。 	<p>自① 自① 他①</p>	<p>観察による評価 (行動観察) 制作物による評価 (修学旅行のしおり) 観察による評価 (行動観察)</p>
<p>5 自分に身に付いた力を分析し、 今後に活かそう (全4時間)</p>	<p>○自分に身に付いた力を分析し、今後に活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフ活用術や思考ツール等を使って修学旅行で学んだこと、これからの課題について発表する。 ・京都、大阪と比較し、高知の良さと課題について考える。 ・東北から学んだことも交え、パワーポイントで発表できるよう、パワーポイント作成のスキルを学ぶ。 	<p>学② 他②</p>	<p>制作物による評価 (修学旅行新聞) 制作物による評価 (パワーポイント、 下書きシート)</p>
<p>6 3学期の活動に向け始動 (全3時間)</p>	<p>○3学期の活動に向けて調査活動、創作活動開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の被災者である語り部による講演を聴き、新たな発見を得る。 ・PMI 分析表を使って「P：良いところ、この活動の工夫点」「M：だめなところ、この活動の足りないところ」「I：おもしろいところ、PM判断できないこと、疑問」について考える。語り部による講演で初めて気づいたことをMにもりこむ。 ・PMI で出てきた問題点を、P&S シートで「Problem：どんな問題があるのか」「Solution：どのように解決するか」について考え、「My Challenge：自分が取り組みたいこと」についてまとめる。生徒自身が分析するとき、表の項目を工夫した場合、全体に紹介して、発展的な学習を進める。 ・「ATAGO タイム」の時間に、身についた力について自己分析し、根拠をもって説明をし、今までの振り返りとする。 ・冬休みの個人研究について、自分で課題設定する。 	<p>他① 学① 他② 学② 自② 自②</p>	<p>制作物による評価 (感想文) 制作物による評価 (ワークシート) 観察による評価 (行動観察、 他己評価) 制作物による評価 (ワークシート) 制作物による評価 (年間で継続使用している評価表) 制作物による評価 (課題決定シート)</p>